

第28号

奈良 国立博物館 だより

平成11年 1・2・3月



特別陳列

経塚出土陶磁展5

中国・四国地方に
埋納されたやきもの

1月5日(火)～1月31日(日) 西新館

特別陳列

新収品展

平成元年～9年度

1月5日(火)～1月31日(日) 東新館

東大寺文書国宝指定記念 特別展観

お水取りと
国宝・東大寺文書

2月23日(火)～3月28日(日) 西新館

特集展示

行基菩薩を偲ぶ

2月23日(火)～3月28日(日) 本館

平常展

仏教美術の名品

1月5日(火)～3月31日(水) 本館

無料観覧日

1月15日(金・祝) 2月3日(水)
3月12日(金)

〔写真解説〕

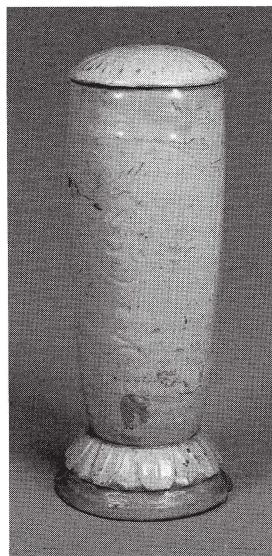
二月堂牛玉宝印

(東大寺世親講衆連署起請文)

鎌倉時代(文永3年=1266)

牛玉宝印は寺院や神社が発行する護符の一種で、しばしば起請文(偽りがないことを神仏に誓う文書)の料紙として用いられた。これは起請文料紙に用いられた牛玉宝印(写真は部分)の初見。ある僧侶の僧綱昇進に反対する東大寺の世親講衆たちは、要求が通らなければ「辺土辺山に退散し、再び奈良に還せざ」と誓って二月堂の牛玉宝印に名前と花押(サイン)を記し、牛玉宝印の聖なる力を借りつつ団結を固めた。

(特別展観「お水取りと国宝・東大寺文書」より)



特別陳列

「経塚出土陶磁展 5」

中国・四国地方に埋納されたやきもの」

1月5日(火)～1月31日(日) 西新館

平成7年から開催してきた「経塚出土陶磁展」シリーズの5回目。経塚から出土した陶磁器を中心に経巻・経筒・鏡・合子などを展示し、中国・四国地方の平安時代から鎌倉時代にかけての陶磁器の流れと経塚遺物の変遷を概観します。亀山焼・勝間田焼・十瓶山焼などの地元の陶器のほか、中国の南宋からの輸入陶磁器や東海地方の猿投古窯で作られた名品など、魅力的なやきものが集まります。

特別陳列

「新収品展 平成元年～9年度」

1月5日(火)～1月31日(日) 東新館

平成元年度から9年度までに新たに館蔵品になった新収品の展覧会。絵画部門では山水図（国宝）、書跡部門では『日本書紀』（国宝）、考古部門では多数の中国陶磁など、仏教美術以外の名品も仲間入りして、広がりと深みを加えた当館のコレクションをご鑑賞ください。

東大寺文書国宝指定記念

特別展観

「お水取りと 国宝・東大寺文書」

2月23日(火)～3月28日(日) 西新館

約1万点という膨大な東大寺文書が国宝に指定されたことを記念する展覧会。約80点を選んで東大寺文書の概要と史料的価値を理解していただくと共に、古文書が語る世界の面白さと魅力を伝えます。奈良に春を呼ぶ伝統行事として名高い東大寺二月堂の「お水取り」に関連のある仏画・絵巻・工芸品などもあわせて御覧いただきます。



●東大寺僧綱等連署寄進状〈部分〉（東大寺）

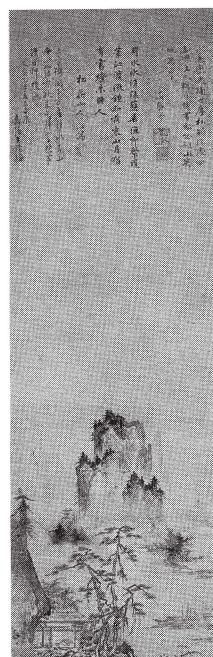
特集展示

「行基菩薩を偲ぶ」

2月23日(火)～3月28日(日) 本館第9・10室

奈良時代に池溝開発や社会事業につとめ、東大寺の大仏造立にも貢献した行基は、天平21年（天平勝宝元年・749）2月2日に亡くなりました。生前から「菩薩」と呼ばれ、多くの人々から慕われた行基。その1250年遠忌を記念し、行基を偲ぶ展示をおこないます。

●山水図（水色鱗光図）（当館）



行基舍利瓶断片（当館）



特別陳列 経塚出土陶磁展5 中国・四国地方に埋納されたやきもの 西新館

鳥取・新興寺経塚遺物(新興寺)、鳥取・下峰寺経塚遺物(鳥取県立博物館)、鳥取・長砂経塚遺物(米子市教育委員会)、島根・高田山寺ノ峯経塚遺物(焼火神社)、島根・神原神社経塚遺物(加茂町教育委員会)、島根・石塔寺権現経塚遺物(豊田神社)、岡山・高井谷経塚遺物、岡山・白山神社経塚遺物(以上東京国立博物館)、広島・西野田経塚遺物(京都国立博物館)、山口・新宮山経塚遺物(山口県埋蔵文化財センター)、山口・妙徳寺山経塚遺物(山陽町教育委員会)、山口・上野経塚遺物(東京国立博物館)、●愛媛・奈良原山経塚遺物(奈良原神社)、愛媛・興居島経塚遺物(東京国立博物館)、愛媛・石手寺経塚遺物(当館)、飛鳥文陶製経筒外容器(伝愛媛・北条市出土)(当館/写真)、香川・香色山経塚遺物(善通寺市教育委員会)、香川・三谷経塚遺物、徳島・一宮経塚遺物、徳島・和泉寺経塚遺物(以上東京国立博物館)、徳島・蛇塚山経塚遺物徳島(願勝寺)



飛鳥文陶製経筒外容器(当館)

特別陳列 新収品展 平成元年～9年度 東新館

【彫刻】 ◎大日如来坐像、阿弥陀如来坐像、如来立像、地藏菩薩立像(写真)、◎增長天立像、吉祥天倚像、觀音菩薩立像、◎力士形立像

【絵画】 ◎尊勝曼荼羅、六字經曼荼羅、●十一面觀音像、◎千手觀音像、勢至菩薩像、◎普賢延命菩薩像、◎虛空藏菩薩像、◎地藏菩薩像、◎地藏菩薩像、烏枢沙摩明王像、華嚴五十五所絵、阿弥陀來迎図、觀經序分義図、●辟邪絵・鍾馗、諸觀音図像、不動儀軌、東大寺縁起、◎水月觀音像、牧牛図、●山水図、扇面画帖、草枕絵巻、楊柳觀音像

【書跡】 ◎日本書紀卷第十残巻、◎灌頂隨願往生経(石川年足願経)、華手経巻第十二(五月一日経)、諸菩薩求仏本業経(五月一日経)、増一阿含経巻第三十九(善光朱印経)、大方等大集経菩薩念仏三昧分巻第九、紺紙金銀交書大般若経巻第四百六十(中尊寺経)、◎紺紙金字一字宝塔法華経巻第三・第五、大般若経巻第百五十七(東大寺八幡経)、◎紫紙金字金光明最勝王経巻第二残巻、毗尼母経巻第五(足利尊氏願経)、版本大般若経巻第三百六十五、版本法華経、◎雜筆集、◎類秘抄、不動護摩次第、觀音講式、造仏所作物帳断簡、◎造東大寺司請経牒、◎弘福寺牒并大和國判、神護寺交衆任日次第、神泉苑図、◎神護寺如法執行問答、◎兀庵普寧墨跡(与東巖慧安尺牘、庚午仲春)、固山一輦墨跡

【工芸】 刺繡阿弥陀三尊來迎図、◎刺繡三昧耶幡、◎金銅種子華鬘、金銅尾長鳥文華鬘、黒漆螺鈿卓、黒漆須弥壇、金銅蓮台形舍利容器、梵字宝相華文銀象嵌香炉、◎黒漆大般若經厨子 附・大般若經、黒漆厨子、金銅火舍、響銅王子形水瓶及び承盤、王子形水瓶、仙蓋形水瓶、銅王子形水瓶、銅水瓶、銅布薩形水瓶、銅三鉛杵、金銅獨鉛杵、金銅密教法具のうち、金銅三鉛杵、金銅三鉛杵、金銅五鉛杵、金銅五鉛杵(金銅密教法具のうち)、金銅割五鉛杵(金銅密教法具のうち)、金銅種子五鉛輪、金銅五鉛輪、銅闕伽桶、◎金銅鷲口

【考古】 1装飾付器台付子持壺須恵器、2人物線刻装飾付子持壺須恵器、3花禽双鸞八花鏡、4経塚遺物-1銅経筒、-2陶製外筒断片、-3紙本墨書無量義経、-4経巻残塊、-5菊花双鳥鏡、-6青白磁合子、-7大刀残欠、-8刀子残欠、-9蝠幅扇残欠、5経塚遺物-1銅経筒、-2銅経筒、-3銅経筒、-4土製外筒、-5土製外筒、-6紙本朱書経、-7松喰鶴鏡、-8草花双鳥鏡、-9独鉛杵、6銅経筒、7金銅水滴、8銅合子、9中国陶磁-1褐釉大壺、-2青磁盤口双耳壺、-3黄釉男女俑、-4加彩馬丁俑、-5白磁壺(有蓋)、-6白磁壺(有蓋)、-7黄釉龍耳瓶、-8三彩駱駝俑、-9三彩駱駝俑、-10三彩鏡、-11三彩婦人俑、-12黄釉文官俑、-13白磁唾壺、-14白磁水注、-15褐釉壺、-16黄釉貼花人物文水注、-17白釉綠彩水注、-18黄釉綠褐彩花文碗、-19黑釉白斑文壺、-20青磁双耳瓶、-21白磁碗、-22青磁蓮弁文小壺、-23綠褐釉枕、-24青白磁水注、-25鉄絵草花文鉢、-26青磁花唐子文鉢、-27綠釉鷄冠壺、-28三彩盤、-29三彩刻花文碗、-30青白磁花唐子文輪花鉢、-31白磁日月壺、-32黄釉武人俑



木造地蔵菩薩立像

東大寺文書国宝指定記念 特別展観 お水取りと 国宝・東大寺文書 西新館

《○東大寺文書》東大寺諸庄文書並絵図目録、玉滻文書東大寺印藏返納目録、觀応二年分文書勘渡帳、東大寺政所仰詞、威儀師覚仁書状、東大寺僧綱等連署寄進状、東大寺衆徒等申状土代、東大寺世親講衆連署起請文、黒田庄惠党人縁者落書交名、黒田庄百姓等連署起請文、依智庄檢田帳、東喜殿庄絵図、兵庫北関代官職請文、大仏殿大般若経転読説衆請定、別當永觀請文、大僧正雅慶書状、造東大寺大勸進聖守書状、沙門蓮生田地寄進状、左大弁藤原伊房書状、後醍醐天皇綸旨、源頼朝御教書(大江広元奉書)など。

《お水取り関連》◎二月堂本尊光背(写真)、二月堂曼荼羅、二月堂縁起絵巻、東大寺縁起、二月堂修中過去帳、◎二月堂修中練行衆日記、◎鏡(堂司鏡)、金銅柄香炉、◎香水杓、香水壺、◎二月堂練行衆盤、銅鉢、鬼瓦(二月堂仏龕屋出土)、緑釉軒平瓦片(二月堂仏龕屋出土)、水波文二彩博片(二月堂仏龕屋出土)、墨書き土器(二月堂仏龕屋出土)(以上東大寺)、紺紙銀字華嚴経(二月堂焼経)、◎類秘抄(以上当館)、二月堂お水取り絵巻など。



二月堂本尊光背部分(東大寺)

平常展 仏教美術の名品 本館

【影刻】

◎銅造弥勒菩薩半跏像(神野寺)、◎銅造觀音菩薩立像(金剛寺)、◎銅造觀音菩薩立像(法隆寺)、銅造觀音菩薩立像(当館)、銅造軍荼利明王坐像(園城寺)、塑造侍者坐像、金銅菩薩立像(以上当館)、◎銅造藥師如來立像(般若寺)、◎銅造如意輪觀音半跏像(東大寺)、◎木造十一面觀音立像(当館)、●木造藥師如來立像(元興寺)、◎木造虛空藏菩薩半跏像(北僧房)、◎木造觀音菩薩立像(本山寺)、◎木造千手觀音立像(園城寺)、◎木造十二神將立像のうち(東大寺)、●木造板彫十二神將像のうち(興福寺)、◎木造八幡三神坐像(藥師寺)、◎木造大將軍神像(大將軍八神社)、木造天部坐像(觀音寺)、銅造釈迦如來坐像(園城寺)、◎木造多聞天立像(当館)、◎木造廣目天立像(興福寺)、◎木造十一面觀音立像(藥師寺)、◎木造十一面觀音立像(地福寺)、◎木造十一面觀音立像(觀心寺)、◎木造十一面觀音立像(勝林寺)、木造觀音菩薩立像(当館)、◎木造重源上人坐像(淨土寺/写真)、木造阿彌陀三尊像(峰定寺)、◎木造地藏菩薩立像(東大寺)、◎木造地藏菩薩立像(長命寺)、木造弥勒菩薩立像(奈良・林小路町) 《特別出陳》 ◎銅造藥師如來及び両脇侍像(藥師寺)[西新館]

【絵画】

1月5日(火)～2月21日(日)

●十二天像(西大寺)、両界曼荼羅(当館)、◎五大尊像(觀音寺)、◎不動明王八大童子像(当館)、◎板繪神像(藥師寺)、伊勢曼荼羅(正暦寺/写真)

2月23日(火)～3月28日(日)

板繪陀落山図、板繪十一面觀音來迎図(以上上海住山寺)、◎聖德太子絵伝(橘寺)、◎興正菩薩像(新大仏寺)、◎心地覺心像(興國寺)、◎嘉承大師像、◎淨影大師像、◎香象大師像(以上東大寺)

【書跡】

1月5日(火)～2月21日(日)

●越州都督府過所・尚書省司門過所、●福州温州台州求法目録(以上園城寺)、◎聖德太子伝暦(本願寺)、◎慈観大師伝(三千院)、●大毘盧遮那成仏神変加持経(吉備由利願経)(西大寺)、大智度論卷第七十四(神護寺経)(当館)

2月23日(火)～3月28日(日)

◎大般若経(長屋王願経)(瑞光寺)、大般若経卷第百四十六(施福寺)、◎大毗婆沙論卷第廿三(五月一日経)、●賢愚経(大聖武)(以上東大寺)、◎増一阿含経卷第三十(善光朱印経)(正暦寺)、●金光明最勝王経(百濟豐虫願経)(西大寺)、般若心経(隅寺心経)(海龍王寺)、◎大般若経(魚養経)(藥師寺)、●円珍度縁并公驗、●伝教大師略伝(以上園城寺)

【工芸】

●金銅透彫華鬘(中尊寺金色院)、金銅種子華鬘、三脚卓、火舍及び水瓶(以上当館)、◎金銅火焰宝珠形舍利容器(海龍王寺)、●当麻曼荼羅厨子扉(当麻寺)、百万塔及び陀羅尼経(当館)、銅経筒(施福寺)、◎金銅透彫經筒(万徳寺)、唐草螺鈿経箱、金山寺香炉(長谷寺)、金銅塔碗形香合、金銅柄香炉(高山寺)、◎銅三具足(聖衆來迎寺)、王子形水瓶、王子形水瓶(かぶら形)(当館)、布薩形水瓶、◎銅梵鐘(当館)、銅梵鐘(海住山寺)、◎銅鷲口(長谷寺)、●金銅密教法具(嚴島神社)、◎銅鏡(円福寺)、金銅獨鉛杵、金銅三鉛杵、金銅五鉛杵(以上当館)、◎金銅四天王鏡(弥谷寺)、銅三昧耶鏡(金峯山寺)、●金銅五鉛鏡(細見美術財団)

[1月5日(火)～2月21日(日)] 刺繡六字名号(宝鏡寺/写真)、錢弘俶八万四千塔(当館)、●金銅透彫舍利容器(西大寺)、●密觀寶珠嵌装舍利厨子(般若寺)、●五鉛四大明王鏡(当館)

[2月23日(火)～3月28日(日)] 刺繡阿彌陀三尊來迎図、舍利厨子(聖衆來迎寺)、金銅宝珠形舍利容器、金銅宝珠形舍利容器、●金銅五輪塔形舍利容器(淨土寺)、五鉛梵釈四天王鏡(当館)

【考古】

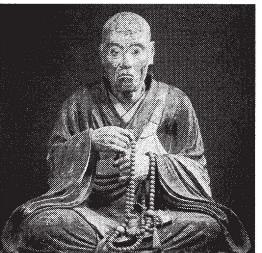
平瓶形骨蔵器、●出雲荻籽古墓出土品(以上当館)、●青磁鉢 附瓦製鉢(正暦寺)、●金峯山経塚出土鍍銀経箱(金峯神社)、銅経筒(平治元年銘)、瑠璃鏡銅板製經筒(以上当館)、●朝熊山経ケ峯経塚出土品(銅経筒2口、銅鏡2面)(金剛證寺)、●藤原道長願経(金峯神社)、伝大分県出土紙本朱書法華経(当館)、●銅板法華経(長安寺)、飯盛山瓦経(当館)、経塚出土鏡(当館)

[1月5日(火)～2月21日(日)] 飛鳥～奈良時代の古瓦(当館など)、山村廐寺出土蓮花文鬼瓦、奥山久米寺出土蓮花文(京都国立博物館)、中山瓦窯出土鬼瓦(当館)、秋篠寺出土鬼瓦、●大安寺出土鬼瓦、橘寺出土方形三尊博仏(当館)、川原寺出土方形三尊博仏(明日香村)、南法華寺出土方形三尊博仏(南法華寺)、山田寺出土博仏、天花寺出土博仏、夏見廐寺出土博仏(以上当館)、●東大寺金堂鎮壇具(東大寺)、●元興寺塔跡鎮壇具(元興寺)、靈安寺塔跡鎮壇具(当館)

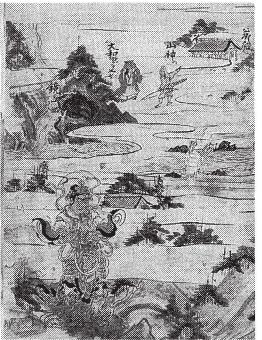
[2月23日(火)～3月28日(日)] ●山代忌寸真作及妻墓誌、群馬・白山古墳出土品

特集展示「行基菩薩を偲ぶ」 2月23日(火)～3月28日(日)

行基舍利瓶断片、三宝絵断簡(東大寺切)(以上当館)、●僧綱補任(興福寺)、●行基菩薩行状絵伝(家原寺)、●四聖御影、●東大寺大仏縁起(以上東大寺)、行基菩薩像



木造重源上人坐像(淨土寺)



伊勢曼荼羅(部分)(正暦寺)



刺繡六字名号(宝鏡寺)

クリーヴランド美術館の様々なスタッフたち

主任研究官 内藤 榮

日本の美術館・博物館の職員は、展覧会や作品・資料にかかる専門的な職務に従事する学芸員と事務系職員の二種類に分かれているのが一般的である。博物館で専門的な仕事に就きたいと思う人は大学等で「学芸員資格」を取得しなければならないよう、博物館の専門的な職員といえば学芸員、ということになっている。しかし、これは世界的な視座で見れば特殊なことかもしれない、とこの夏から思うようになった。

平成10年夏、アメリカ・オハイオ州のクリーヴランド美術館でBuddhist Treasures from Nara（日本名「仏教美衆品展」）が開催され、私は作品に随行して日航のカーゴ便に乗り込み、同館スタッフとともに展示作業を行った。このおり日本の美術館ではお目にかかれないとこの夏から思うようになった。

まず、展覧会に先立ち、作品の点検・梱包のために来日したのがコンサバター（conservator）であった。コレクションの状態の把握、修復、保管を主な仕事とし、作品の移動に随行することも多い。日本では他の美術館等から出品の依頼があった場合たいてい学芸員が可否を検討するが、アメリカではコンサバターの意向が強く反映するようだ。大学で美術史と実技を学びコンサバターをめざす人も多いそうで、博物館の専門家といえば学芸員しかいない日本とは違う。ちなみに日本では修復は館外の業者に委託するのが一般的である。そして、作品に随行した我々を美術館で迎えてくれたのはレジストラー（registrar）であった。レジという言葉から連想されるように記録係であり、作品の移動を常に記録に留め、展示作業中もギャラリーで開梱の状況をポラロイドカメラで細かく記録していた。美術館についた荷はアートハンドラー（art handler）たちによって運搬された。日本ならば日本通運やヤマト運輸の美術専門の作業員といったところであろうが、自前である。展示会場の順路や会場装飾はデザイナー（designer）が設計し、ケースはデザイン部で制作され、アートハンドラーたちの手によって据え付けられていた。作品の開梱はレジストラーの注視のもと、梱包を専門とするパッカー（packer）によって行われ、作品の状態チェックを我々日本側の学芸員とコンサバターが行った。そして、展示ケースの中での展示方法（つまり位置決め）はデザイナーが行い、照明もデザイナーの指示のもと照明係が行う。また、デザイン部には作品を固定したり支えるなどの備品や題籠を作る専門のスタッフもおり、とくに備品制作のスタッフは高度なテクニックを持ち、我々を羨ましがらせた。このほか、図録等の出版部、絵画の額専門の係、営業や企画に携わるDevelopment部などがあることを知った。これまで学芸員（curator）の名前が出てこなかったが、作品のリストアップや作品解説の執筆など展覧会にかかる準備を学芸員が主体となって行うのは日本と変わらない。

このような徹底した分業体制は美術館界に限らずアメリカ社会の特徴なのであろう。それにひきかえ、日本の学芸員はコンサバターのように収蔵品の保管をし、レジストラーのように作品の移動を記録し、デザイナーのように展示を行い、図録を編集し、パッカーやアートハンドラーの仕事もこなす。確かに「雑芸員」と言われるくらい雑務が多い。しかし、忙しい忙しいと文句を言いつつ、やはり展示作業は学芸員の腕の見せ所であり、図録編集、梱包作業などもやってみると楽しい。これを取り上げられたらきっと寂しいだろうな、と感じた。なお、日本では他館より作品を拝借するとき借りる側の学芸員が美術品梱包業者の車などに便乗して出向くものだが、これをクリーヴランドのコンサバターに話したところ大変驚かれた。貸す側が出向くもので、借りる側が行くなんて聞いたことがないという。これも新発見のひとつ。



ケースにアクリルをはめるパッカーとデザイナー

予 告

春季特別展 「聖と隠者 一山水に心を澄ます人々」

4月27日(火)～5月30日(日)

都市や寺院を離れて山林に住み、仏道修行に励んだり詩歌の制作に打ち込むことは、日本の長い歴史を通じて常に重要視されており、美術や文学の主要なテーマとなって、多くのすぐれた作品を生み出してきました。この展覧会は、飛鳥時代から室町時代にかけての絵画作品を中心的に彫刻・書跡・工芸の名品も集め、中国を視野に入れつつ、自然のなかに生きる人間の姿を見つめ、先人の求めた世界を深く味わう機会とします。

◆公開講座

1月23日(土) 中国・四国地方 経塚のやきもの
3月6日(土) 中世東大寺における法会と寺僧

倉敷考古館長 間壁忠彦
日本女子大学文学部教授 永村 真

午後1時30分より3時まで。講堂にて。聴講無料。ただし先着200名。

◆ギャラリートーク 毎月第2水曜日に実施します。

1月13日(水) 中国・四国地方の経塚出土陶器
2月10日(水) 勝林寺の十一面観音像を中心に
3月10日(水) 東大寺文書を楽しむ

考古室長 井口喜晴
主任研究官 井上一穂
普及室長 西山 厚

午後2時より。1月と3月は新館陳列室、2月は本館陳列室にて。入館者の聴講自由。

◆ボランティアによる作品解説

開館日の10:00～11:00～14:00～15:00～の1日4回、わかりやすい解説を展示室でおこなっています。

◆奈良国立博物館友の会 平成11年度会員募集

平成11年度「友の会」の会員を募集いたします。

募集要項および振込用紙を郵送希望の方は、返信用封筒（80円切手貼付・宛名明記）を同封の上、当館「友の会係」までお申し込みください。（現会員の方には継続案内を1月中旬にお送りいたします。）

会員費：一般1800円 学生1150円（うち50円は会員証郵送料）

会員の特典：①奈良・東京・京都国立博物館を無料で観覧できます。

（ただし特別展等は1回限り無料）

②奈良国立博物館発行の展覧会カタログ等の出版物を各1部、1割引で購入できます。ただし、出版物によっては割引できない場合もありますので、ミュージアムショップでお確かめください。

受付期間：2月1日(月)～2月12日(金)

申込方法：所定の振込用紙に必要事項を記入し、上記期間中に最寄りの郵便局で会費を振り込んでください。

《お知らせ》

①仏教美術資料研究センターの図書や写真などの閲覧を一時停止します。

仏教美術資料研究センターでは、図書や写真などの研究資料を毎週水・金曜日に館外の研究者にも公開していますが、書庫の移動のため、1月13日(水)から3月31日(水)まで閲覧を停止することになりました。しばらくの間ご不便をおかけしますが、御了承ください。

②奈良国立博物館の最寄りのバス停留所の名称が変更されました。

近鉄・JR奈良駅からバスでご来館の際は「冰室神社・国立博物館」で、高畠町方面からお越しの際には「東大寺大仏殿・国立博物館」でお降り下さい。

開館時間 午前9時より午後4時30分まで（入館は午後4時まで）

休館日 月曜日（月曜日が祝日または振替休日の場合は開館し、翌火曜日が休館）

観覧料金 每月第2・4土曜日は、小・中学生無料

平常展		大人	高・大生	小・中学生
	一般	420円	130円	70円
	団体	210円	70円	40円

*団体は責任者が引率する20名以上。

*特別展観・特別陳列もこの料金であわせて観覧できます。

無料観覧日 1月15日(祝)〈若草山山焼き〉

2月3日(水)〈春日大社万燈籠〉

3月12日(金)〈お水取り〉

『奈良国立博物館だより』は、1・4・7・10月に発行します。郵送をご希望の方は、何月号かを明記し、返信用封筒（80円切手貼付、宛名明記）を同封して、当館の普及室にお申し込み下さい。

〒630-8213 奈良市登大路町50 電話0742-22-7771 FAX0742-26-7218 テレフォンサービス0742-22-3331 **奈良国立博物館**
ホームページ〈URL〉http://www.narahaku.go.jp/